

# J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

---

プロジェクトの名称：

ひだ荘川温泉「桜香の湯」における木質バイオマス  
ボイラー導入による CO2 削減プロジェクト

プロジェクト 実施者名	株式会社井上工務店
----------------	-----------

妥当性確認申請日 2017 年 10 月 19 日

プロジェクト登録申請日 2018 年 2 月 23 日

## 1 プロジェクト実施者の情報

### 1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) カブシキガイシャイノウエコウムテン
	株式会社井上工務店
住所	岐阜県高山市江名子町 2715-11

### 1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ) イッパンザイダンハウジンショウカ ワカンコウシンコウコウシャ
	一般財団法人荘川観光振興公社
住所	岐阜県高山市荘川町猿丸 82-1

※1 複数のプロジェクト実施者が参加する場合には、欄をコピーしてそれぞれのプロジェクト実施者の情報を記載すること。

### 1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ) カブシキガイシャイノウエコウムテン
	株式会社井上工務店
住所	岐阜県高山市江名子町 2715-11

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

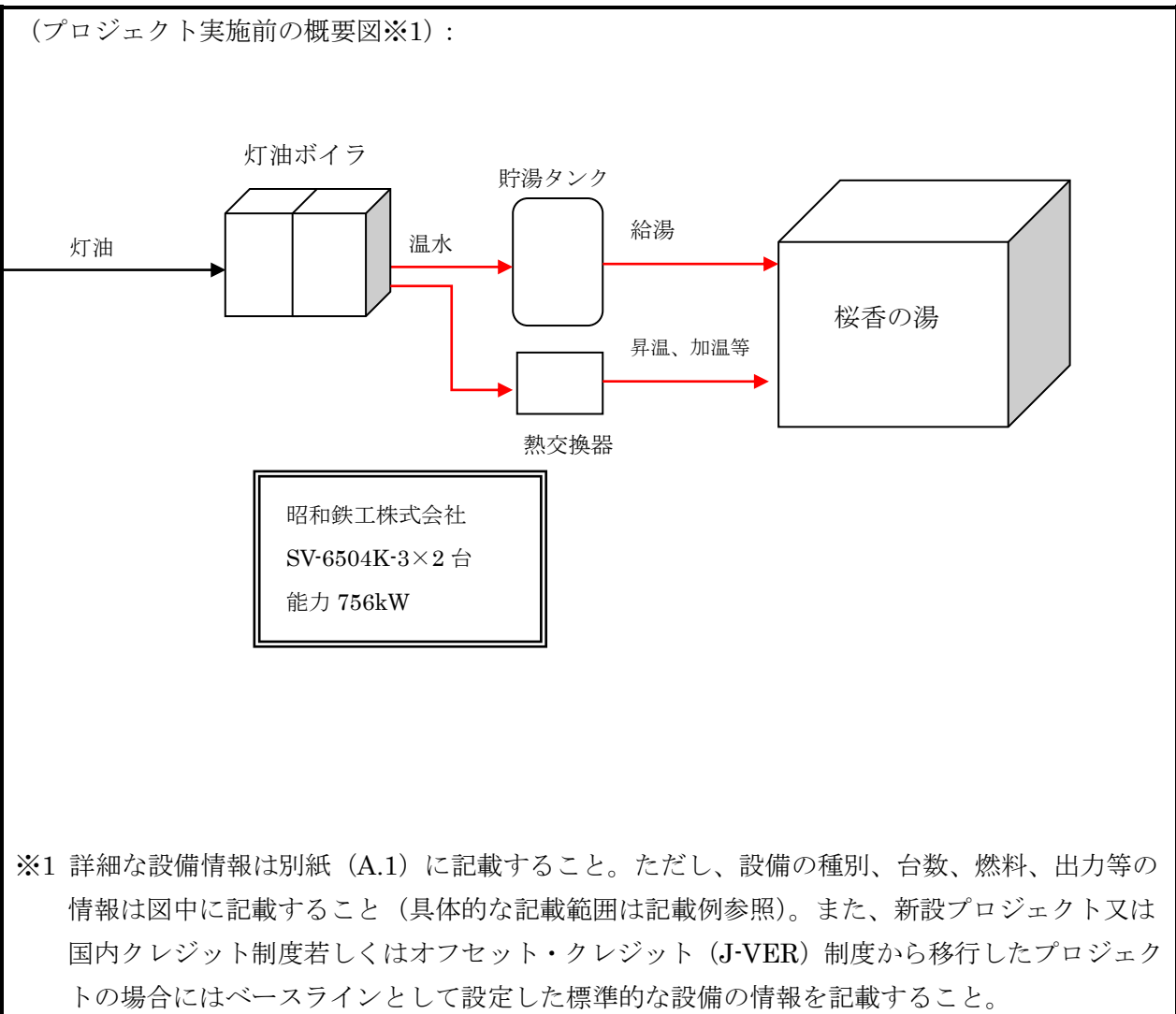
※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2~4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

## 2 プロジェクト概要

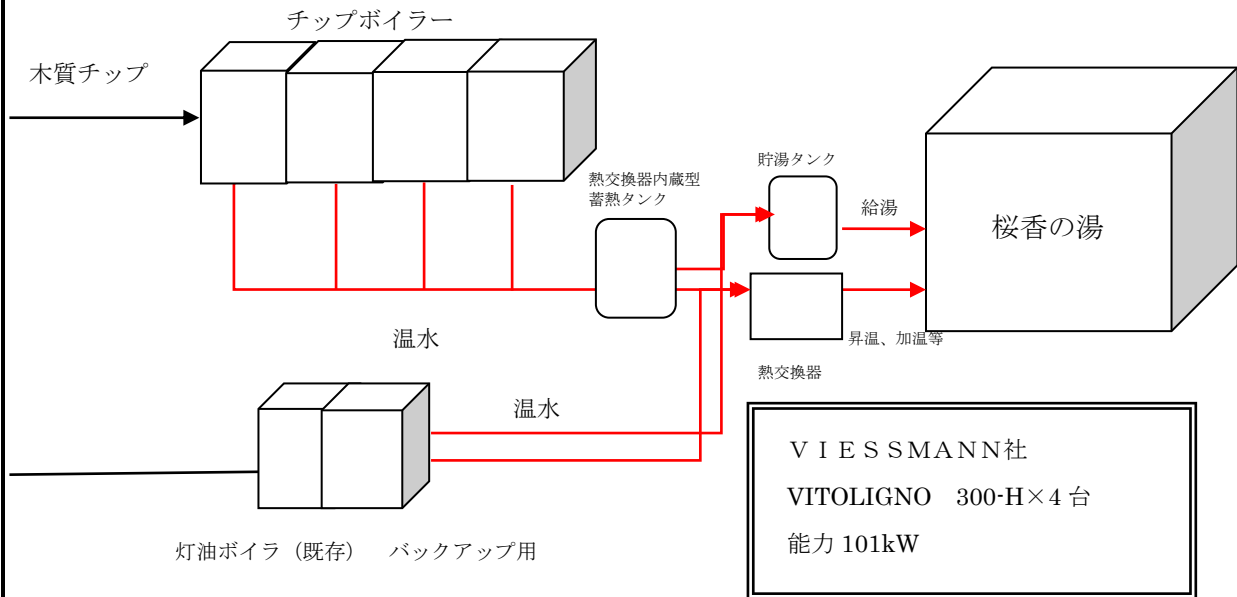
### 2.1 プロジェクトの目的及び概要

プロジェクト名	ひだ荘川温泉「桜香の湯」における木質バイオマスボイラー導入によるCO2削減プロジェクト	
目的	ひだ荘川温泉「桜香の湯」に、木質バイオマスボイラーを導入することで、化石燃料の代替を行いCO2排出量を削減する。また燃料に地元の未利用木材を利用することで、森林経営を促進させ、燃料の地産地消を促進させる。	
概要（削減方法）	ひだ荘川温泉「桜香の湯」において、給湯・昇温用に木質チップのボイラーから生成する熱を利用することで、灯油ボイラーによる化石燃料の代替を行いCO2排出量を削減する。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	ひだ荘川温泉「桜香の湯」
	住所	岐阜県高山市荘川町猿丸 82-1

### 2.2 プロジェクト実施前後の状況



(プロジェクト実施後の概要図 ※2) :



※2 詳細な設備情報は別紙 (A.1) に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること (具体的な記載範囲は記載例参照)。

### 2.3 プロジェクト要件への適合

<p>プロジェクトの実施日 ※1</p>	<p>■プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクトである □2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット (J-VER) 制度におけるプロジェクト登録を受けている ※2</p>
<p>追加性</p>	<p>■追加性を有している ※3</p>

※1 「プロジェクトの実施日」とは、温室効果ガス排出量の削減をもたらす活動が実質的に開始された日を意味する (例えば、設備の導入を伴うプロジェクトの場合、設備が最初に稼働した日とする)。

※2 国内クレジット制度又はオフセット・クレジット (J-VER) 制度から移行したプロジェクトについては、「プロジェクト登録申請日の2年前の日以降に実施されたプロジェクト」という要件を満たしている必要はない。ただし、標準的な設備をベースラインとして設定する必要がある。

※3 追加性評価に関する詳細情報は別紙 (A.2) に示すこと。方法論の7. 付記において、追加性の評価が不要とされているもの (ポジティブリスト) については、別紙 (A.2) の記入は不要。

### 3 方法論

#### 3.1 適用方法論

適用する方法論	方法論番号	EN-R-001 ver.1.4
	方法論名称	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
更新/新設 ※1	■更新プロジェクト □新設プロジェクト	

※1 ベースラインとして標準的な設備を設定する場合、「新設プロジェクト」となる。

#### 3.2 方法論の適用条件への適合 ※1

条件 1	■ 適合している	説明 化石燃料を使用する熱源設備でバイオマス固形燃料(木質チップ)を使用するため、条件 1 を満たす。
条件 2	■ 適合している	説明 バイオマス固形燃料を使用する設備で生産した熱は全て自家消費しているため、条件 2 を満たす。
条件 3	■ 適合している	説明 バイオマス固形燃料の原料は、全て製材工場で発生する製材端材を利用しており、伐採に当たって法令に従い適切に手続きが行われた木材であるため条件 3 を満たす。 検証時には「未利用証明書」等を取得し未利用材であることを確認する。
条件 4	■ 適合している	説明 当該プロジェクトは家庭用暖房ではないため該当しない。
条件 5	■ 適合している	説明 当該プロジェクトは、更新前の設備の効率等の仕様書が取得でき、法定耐用年数の2倍を超えずに継続して利用できる。また更新前後で設備のエネルギー量以外の能力特性が変わらずに、更新後の設備の定格能力が更新前の設備の定格能力に対して1.5倍を超えない。 また当該プロジェクトは化石燃料からバイオマス固形燃料への転換によって CO2 排出量が削減されるため、設備のエネルギー効率に関する条件は満たす必要はない。また設備で利用する熱は全て自家消費している。 以上より、当該プロジェクトは条件 5 を満たす。

※1 記載内容に関する根拠資料や関連情報等について、妥当性確認機関からの要求に応じて情報提供を行うこと。

### 3.3 モニタリング・算定方法

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	対象設備の使用	CO2	—	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	対象設備の使用	CO2	—	■排出量の算定を行う
付随的	バイオマス原料の運 搬	CO2	31.9	■排出量の算定を行う
付随的	バイオマス固形燃料 化処理設備の使用	CO2	13.2	■排出量の算定を行う
付随的	バイオマス固形燃料 の運搬	CO2	8.6	■排出量の算定を行う
付随的	対象設備に附帯する 追加設備の使用	CO2	2.1	■排出量の算定を行う

※1 各排出活動の排出量算定方法及び影響度の算定方法については別紙（A.3）に記載すること。

※2 モニタリング方法については別紙（A.4）に記載すること。

#### 4 排出削減計画

認証対象期間 ※1	2018 年 3 月 1 日 ~ 2026 年 2 月 28 日 (8年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2014 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2015 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2016 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2017 年度	20.8 t-CO2	7.4 t-CO2	13 t-CO2
	2018 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2019 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2020 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2021 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2022 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2023 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2024 年度	245.0 t-CO2	87.6 t-CO2	157 t-CO2
	2025 年度	224.2 t-CO2	80.2 t-CO2	144 t-CO2
	2026 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2027 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2028 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2029 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	2030 年度	t-CO2	t-CO2	t-CO2
	合計	1,960.0 t-CO2	700.8 t-CO2	1,256 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

※1 認証対象期間は、プロジェクト登録の申請予定日若しくはモニタリングが可能となる予定日のいずれか遅い日から、同日より 8 年を経過する日若しくは 2031 年 3 月 31 日のいずれか早い日までの間で設定すること。

※2 排出削減量の算定方法については、別紙 A.3 に記載すること。

## 5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

### 5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	井上工務店 代表取締役社長
モニタリング担当者 ※1	井上工務店 製材・林業グループ

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

### 5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	<ul style="list-style-type: none"><li>・担当者は毎月、購買伝票（請求書）よりボイラーの生成熱量およびボイラー設備における電力使用量を確認し、記録・保管する。</li><li>・担当者は毎月、チップ運搬記録シートより、木質チップ運搬量を確認し、記録・保管する。</li><li>・担当者は木質チップの原料調達先、およびチップ製造工場の場所および輸送方法に変更が無いか確認する。</li></ul>
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u> 2 </u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。

※2 原則認証対象期間終了後2年間とする。



## 6 特記事項

### 6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、ベースライン排出量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	設備の故障、ボイラー稼働率の増減等

### 6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： \_\_\_\_\_)

類似制度での認証予定期間： \_\_\_\_\_ )

登録していない

### 6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。